

水と災害／東京・大阪・中京圏

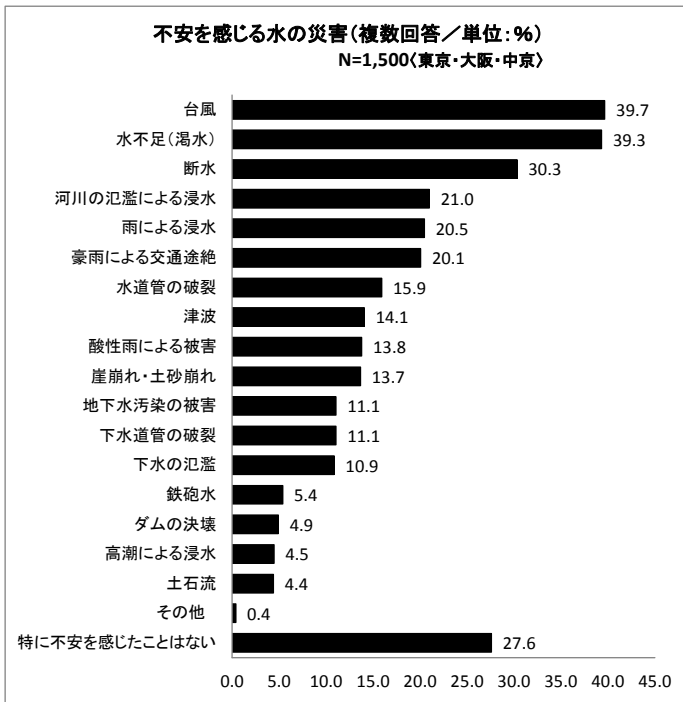
Q.不安を感じる水の災害は？（17択＋その他＋特に不安を感じたことはない）

◇全体のトップ3は「台風」「水不足」「断水」、東京圏では「水不足」が1位

◇大阪圏では「津波」を最も不安に感じる人が増加

「不安を感じる水の災害」について聞いたところ、1位「台風」(39.7%)、2位「水不足」(39.3%)、3位「断水」(30.3%)と、全体のトップ3は昨年と同様でしたが、その中で「水不足」は、昨年(32.9%)と比べて6.4ポイントアップし、1位の「台風」に0.4ポイント差(昨年は8.7ポイント差)まで迫った他、東京圏ではトップ(43.0%)となりました。「水不足」の数値上昇については、今年は入梅直後の少雨でダム貯水量が低下したことなどによる水不足への懸念に関する報道が影響したとも考えられます。

次に、「特に不安を感じたことはない」の回答者を除いた「最も不安に感じる水の災害」を聞いたところ、こちらも1位「台風」(21.5%)、2位「水不足」(21.3%)、3位「断水」(11.2%)がトップ3で、「水不足」の数値が昨年比8.6ポイント増と、全体の傾向は変わらなかったものの、中京圏では3位に「河川の氾濫」(14.1%)が入り(東京圏は5.8%で6位、大阪圏は7.7%で5位)、大阪圏では「津波」(9.4%・4位)の数値が昨年比で2.2ポイント上昇するなどの独色が見られました。大阪圏での「津波」の数値上昇は、大阪府による南海トラフ巨大地震における被害想定発表と、本調査時期が重なったことも要因の1つとして考えられそうです。



最も不安に感じる水の災害トップ5(単数回答/単位:%)

	東京圏(N=361)	中京圏(N=375)	大阪圏(N=350)
1位	水不足	台風	水不足
	26.2	25.1	21.6
2位	台風	水不足	台風
	19.1	16.0	20.3
3位	断水	河川の氾濫による浸水	断水
	13.0	14.1	10.9
4位	雨による浸水	断水	津波
	6.6	9.9	9.4
5位	津波	雨による浸水	河川の氾濫による浸水
	6.4	8.0	7.7

Q.水のありがたさを感じる時は？（10択＋その他＋感じることはない）

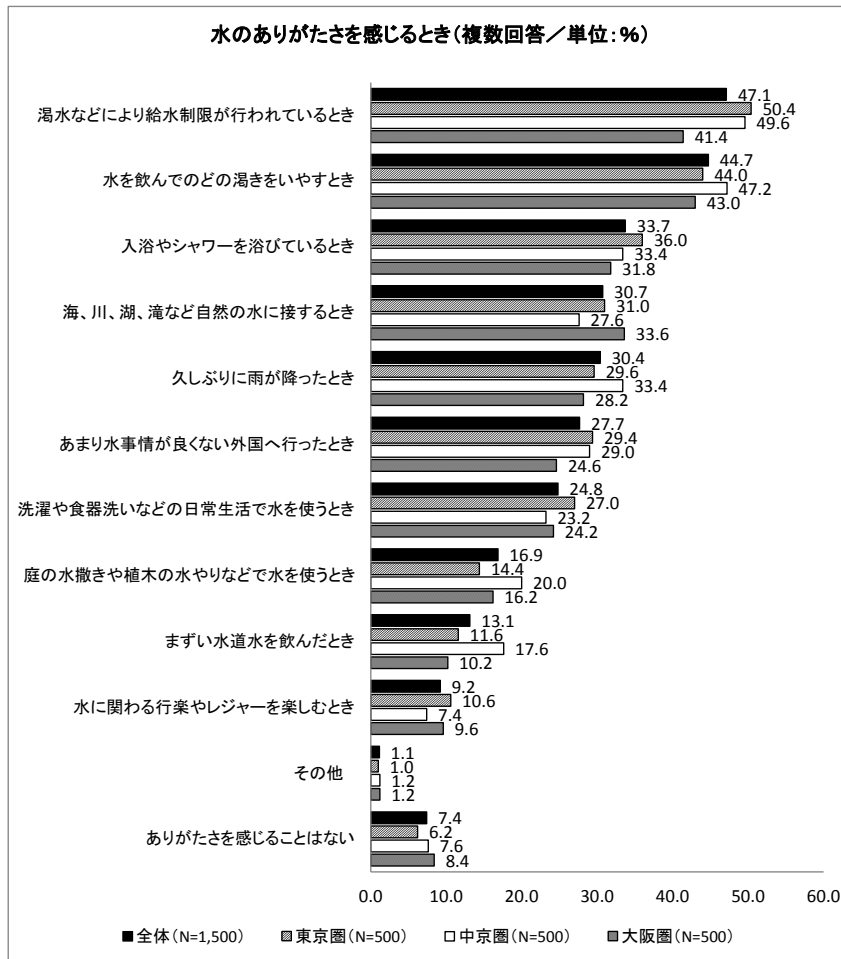
◇水不足による湯水への懸念が影響か？「給水制限のとき」が1位に

水のありがたさを感じるのは、どのような時なのでしょう？

「水のありがたさを感じる時」を聞いたところ、「給水制限が行われているとき」(昨年2位)が半数近くの回答(47.1%)を得て1位となり、前問の「不安を感じる水の災害」と同様、多くの人が水不足による湯水を懸念しているという心理が垣間見えました。

一方、昨年1位の「のどの渇きをいやすとき」は、9.6ポイント減の44.7%で2位に下がりました。本調査が実施された6月中旬は、昨年と比べて平均気温は高かったものの平均湿度が低く、昨年ほど蒸し暑くなかったことが結果に影響を及ぼしたのかもしれませんが。

また、居住地別では、大阪圏が1位「のどの渇きをいやすとき」(43.0%)、2位「給水制限が行われているとき」(41.4%)、3位「自然の水に接するとき」(33.6%)と、他のエリアと若干の違いがありました。



Q.災害時に対する水の備えは？ (6択+その他+何もしていない)

◇東日本大震災から2年経過で危機意識の薄れか？

“ミネラルウォーター買い置き”が減、“備えなし”が増

「災害時に対する普段の水の備え」は、ここ数年「ミネラルウォーターを買い置きしておく」人が増加傾向で、「何もしていない」人は減少傾向にありましたが、今回は「ミネラルウォーターを買い置きしておく」が昨年より2.6ポイント減の49.7%、「何もしていない」が3.2ポイント増の38.6%と、近年の傾向に反しました(下記【ご参考】参照)。特に東京圏では、「ミネラルウォーターの買い置き」(59.2%)、「風呂の水をためておく」(23.0%)が、それぞれ昨年より6.8、4.8ポイント減少し、「何もしていない」(30.8%)が6.8ポイント増加するなど、東日本大震災から2年余りが経過したことによる危機意識の薄れとも読み取れる結果となりました。

【ご参考】

